

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	プリEHUT		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ビジョントレーニングを毎日積み重ねていくことで、日常生活における課題を解決するための「視る」昨日を高めることができる。(視る)カとは、3次元空間を読み取る力。	確実に昨日を高めるためには、継続することが大切なので、子どもたちが抵抗なく楽しく取り組めるよう一人ひとりに応じた段階のトレーニングを行う。	一人ひとり、トレーニングを進めるにあたり、段階には幅を持たせたり、意欲的に継続してトレーニングを行えるように新たなトレーニングの模索にも力を入れている。
2	一人、一台専用のPCを提供することで基本的なPC操作はもとより、プログラミングを段階的に習得させることにより、将来自立して働けるように支援をすることができる。	基本的なPC操作から始め、子どもたちが興味を持ちやすいプログラミングの初歩が体験できるマイクラフト等を使い、継続した支援を行っている。	基本的なプログラミングが習得できた子どものために更に高い段階のプログラミングの提示ができるよう指導員もプログラミングを学ぶ努力をしている。
3	外遊びやピラティスを毎日続けて行うことで、運動協調性を強化し、精神的な安定を図ることができる。	無理なく、運動による様々な方面への成長を促すため集団で楽しむことのスポーツを取り入れ、静(ピラティス)、動(外遊び 体幹トレーニング)の時間配分をうまく調整するようにしている。	子どもたちが進んで活動に取り組めるよう異年齢集団の充実を図り、子どものリーダーによる、活動作りを心掛けている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の人員不足(支援における基本的な人員確保はできていない)のため送迎時、子どもたちへの負担を軽減させる必要がある。	職員を募集しているが、働きたいという人材がおらず、面接までも難しい。	様々な方面へ求人への要請を行うとともに、常勤募集だけでなく、時間を区切りパート募集も視野に入れる必要がある。
2	情緒の子どもの受け入れが多いため、知的に遅れのある子への受け入れが難しい。集団における活動による支援を目指しているため、その凄み分けが難しく、その体制がまだできていない。	支援内容を見ての見学訪問になるので、情緒の子どもたちが集まりやすい状況になっている。	職員数の増員が伴えば、情緒と知的の支援の凄み分けが可能となると思う。その時のための知的へのアプローチできる体制を現段階から整えておく必要がある。
3	女の子の受け入れ人数が少ないため来所している女の子同士の衝突が必然的に増えてしまう。距離を取らせた方がいい場合もあるが、どうしても関わる場面があり、落ち着かないことがある。	見学に来る子どもたちも比較的に男児が多く、女兒の見学はほほえない状況なので、女兒の家庭との契約には至っていない。	女兒の入所においては、長い目で見ていくしかないだろうと思う。現在利用している女兒同士をどう位置づけていくか、支援の方面で今は考えていくしかないだろう。